

## 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	大腸がん予防事業費			
担当課係名	健康管理センター 課	所長 係	作成者	藤原喜明
総合計画での位置づけ	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち		総合計画のページ  44
	基本計画	健康づくりの推進と病気予防体制の充実		
	主要施策	健康づくりの推進		
予算費目	一般 会計	4 款 衛生費	1 項 保健衛生費	2 目 予防費
事業期間	平成 21 年度 ~ 平成 32 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略事業）			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input type="checkbox"/> 直 営 <input checked="" type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補 助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市内の40～74歳の方を対象とする。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	全大腸内視鏡検査(TCS)による大腸がん検診の有効性を検証すること、およびTCS併用による大腸がん死亡率減少効果の増大を実証する。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	大仙市及び仙北市民で研究参加に応諾した40～74歳の男女約10,000人を対象に、便潜血検査に大腸内視鏡検査を併用する介入群と、併用しない非介入群を無作為割付により設定し、データを比較解析する。

【事務事業の推移】

		項 目		単位	23年度実績		24年度実績		
					23年度実績	24年度実績			
効果	活動指標	対象者数	目標	人	14,800	14,712			
			実績	人	4,177	3,880			
			達成度	%	28.2%	26.4%			
	成果指標	受診率（研究参加者数）	目標	人	4,000	4,000			
			実績	人	2,853	2,999			
			達成度	%	71.3%	75.0%			
投下コスト	項 目		総事業費		23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)			
	事業費（人件費を除く）(A)				5,067	5,521			
	人 件 費 (B)		—		21,198	20,715			
	職 員 数		—		2.50	2.50			
	職員平均人件費		—		8,479	8,286			
	(A) + (B) 投下コスト		—		26,265	26,236			
	財源内訳	国庫支出金				0	0		
		県支出金				0	0		
		地方債				0	0		
		その他				400	330		
		一般財源				25,865	25,906		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		6,288	6,762			
	市民1人当たりのコスト(円)		—		883	893			

【事務事業の今までの成果】

「大腸がん検診の研究(比較試験)」参加者は、目標数に達していないが、22年度に大腸がん撲滅キャンペーンも立ち上げ、大腸がん検診そのものの受診者数は、事業開始前のH20の3,478名より1,000名以上着実に増えている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	厚生労働省の第3次対がん総合戦略研究事業として行われており、モデル都市として仙北市が参加。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	便潜血検査はもちろん、介入群の大腸内視鏡検査も無料で行うことができ、この機会にぜひ市民全員に参加していただきたい。そして、その成果を仙北市から全世界に向け発信を。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
<b>A</b>	A 現状のまま継続(実施)	がん予防、とりわけ大腸がんは、2015年には男女とも罹患率が第1位と推定されており、わが国で最も対策上重要ながんのひとつである。 仙北市においても同様であり、研究事業、大腸がん撲滅キャンペーンの中で、大腸がん検診受診率を向上させ、がん撲滅を目指すということでA判定とした。 今後、更に市職員の理解や関心を得ながら、職域への対策が急務となっている。
	B 1 見直しの上で継続(拡大)	
	B 2 見直しの上で継続(手段改善等)	
	B 3 見直しの上で継続(縮小)	
	C 1 大幅な見直しの上で継続(拡大)	
	C 2 大幅な見直しの上で継続(手段改善等)	
	C 3 大幅な見直しの上で継続(縮小)	
	D 休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	
E 終了(完成及び目的を達成し終了した事業)		

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

【二次評価】

判定	判定に至った理由
<b>A</b>	重要な事業であるため、今後は受診者数の目標達成に向け、周知方法について検討していくべきと考えます。

